日本海底棲生物調査

担当者　技師　沢田兼造
〃　富永武治
瑞鷗丸船長　橋本留蔵

I 調査目的

本県日本海鰺作崎海域における主要底棲魚族の時期別，深度別，漁穫組成；回遊生態等を把握し，底びき網漁業の発展に資する。

II 調査内容

1. 調査場所　青森県日本海沖合海域
2. 調査期間　昭和42年12月11日～昭和43年3月30日
3. 調査項目及び方法
   a 項　目　魚種別月別漁穫高，操業海区別水深別漁穫高，月別漁穫推移
   b 方　法　試験船瑞鷗丸（40.81トン　テーゼル160P・S）により艘びき，底びき網漁法により調査

III 調査結果

瑞鷗丸により昭和42年12月11日から調査を開始したが調査期間中における操業日数は36日で曳網回数は160回（内曳網不能回数6回）総漁穫量は5.915㎏であつた。

第 1 表

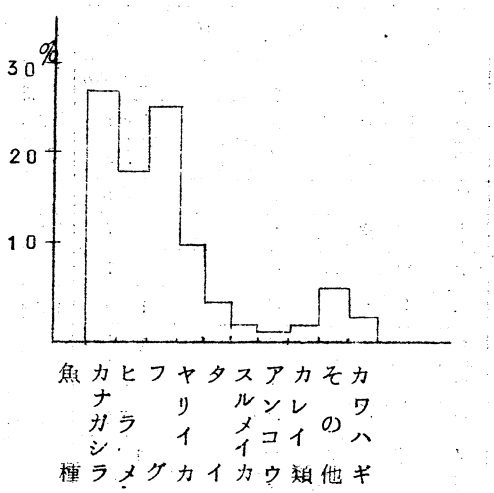
調査期間中における漁穫物の主な魚種組成並に漁獲高

魚種	12月	1月	2月	3月	計	%
カナガシラ	210Kg	344Kg	249Kg	98Kg	901Kg	15.23
ヒラメ	126	457	315	198	1.096	18.52
フグ	187	337	65	16	605	10.22
カワハギ	16	16			32	0.54
ヤリイカ	88	193		9	290	4.9
スルメイカ	10	10			20	0.33
タイ	28	38			66	1.11
メイタカレイ	7	35	10		52	0.79
アンコウ	9	92	81	148	330	5.57
カレイ	12	206	76	194	488	8.25
ホッケ		4			4	0.06
オニカサゴ		4			4	0.06
タコ		3	7		10	0.69
アブラツノザメ		36		130	166	2.6
ババカレイ			163	79	242	4.09
キス			127	70	197	3.33
マガレイ			54	142	196	3.31
カスペ			30	45	75	1.26
ノドグロ			190	330	520	8.79
カジカ				35	35	0.59
イシモチ				30	30	0.50
小タラ				10	10	0.69
その他	51	193	146	156	546	9.23
計	744	1.968	1.513	1.690	5.915	100%

第　2　表

月別，魚種別，漁獲高推移　（１２月分）

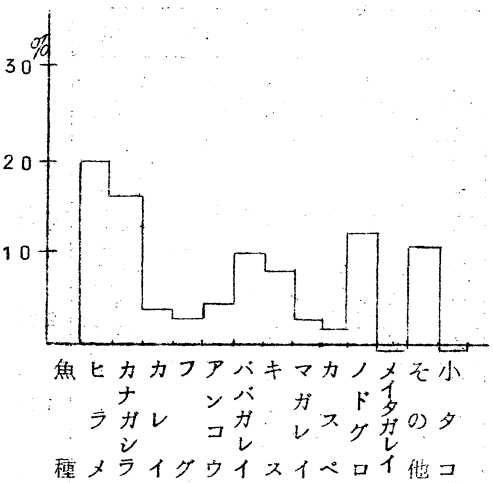
魚種	数量
カナガシラ	210Kg
ヒラメ	126
フグ	187
カワハギ	16
ヤリイカ	88
スルメイカ	10
タイ	28
メイタガレイ	7
アンコウ	9
カレイ	12
その他	51
計	744Kg



第　3　表

（４３年１月分）

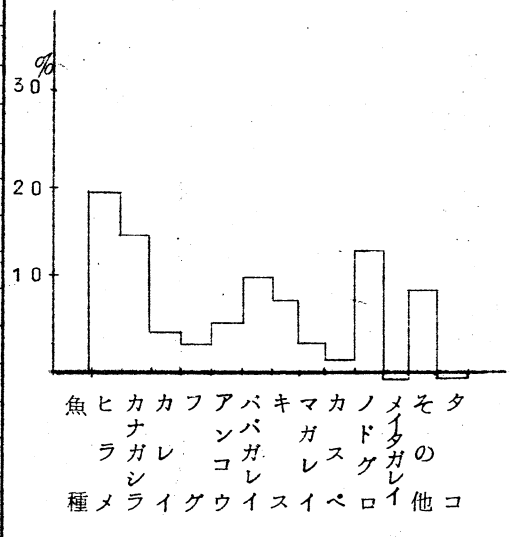
魚種	数量
ヒラメ	315Kg
カナガシラ	749
カレイ	76
フグ	65
小タコ	7
アンコウ	81
ババガレイ	163
キス	127
マガレイ	54
カスペ	30
ノドグロ	190
メイタガレイ	10
その他	146
計	1.513Kg



第　4　表

（４３年２月分）

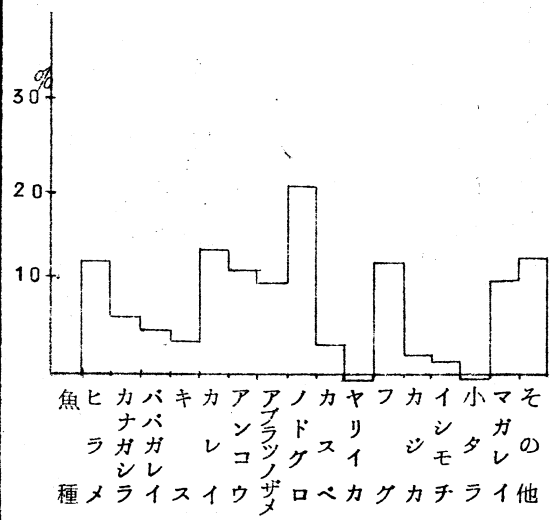
魚種	数量
ヒラメ	315Kg
カナガシラ	249
カレイ	76
フグ	65
小タコ	7
アンコウ	81
ババガレイ	163
キス	127
マガレイ	54
カスペ	30
ノドグロ	190
メイタガレイ	10
その他	146
計	1.513Kg



第　5　表

（昭和４３年３月）

漁種	数量
ヒラメ	198Kg
カナガシラ	98
ババガレイ	79
キス	70
カレイ	194
アンコウ	148
アブラツノザメ	130
ノドグロ	330
カスペ	45
ヤリイカ	9
フグ	16
カジカ	35
イシモチ	30
小タラ	10
マガレイ	142
その他	156
計	1.690Kg



第 6 表

月別操業日数，曳網回数，漁獲量及び1曳網当り漁獲量

項目＼月	12月	1月	2月	3月	計
操業日数	4日	9日	11日	12日	36日
曳網回数 ( )内は曳網不能回数	16回	44回	51回 (1)	43回 (5)	154回 (6)
漁獲高	744Kg	1.968Kg	1.513Kg	1.690Kg	5.915Kg
1曳網当り漁獲高	46.5Kg	44.71Kg	29Kg	35.2Kg	36.97Kg

第 7 表

主要魚種別，年別，漁獲高比較表

魚種＼年別	漁獲高		B／A
	41年度 A	42年度 B	
ヒラメ	1.671Kg	1.096Kg	6.56
フグ	1.550〃	605〃	3.90
カレイ類	954〃	926〃	9.70
カナガシラ	847〃	901〃	10.63
キス	231〃	197〃	8.52
アブラツノザメ	460〃	166〃	3.6
その他	1.490〃	546〃	3.66
計	7.203Kg	4.437Kg	61.59

又，本年度実施した調査の操業海区別，水深別漁獲高は第1図のとおりである。

42年は12月11日から操業開始（41年度より約1ケ月早く操業した）12月中の操業日数は4日間で昨年度同様フグ漁が目立つた。昨年度漁獲されたフグは体長15～17cmのものが大部分であつたが，本年は豆フグ（ナメラフグ）10cm前後のものが多く漁獲された。

各漁場とも水深90～120cmであり，魚価の高いヒラメ，アブラツノザメ等は当初から不振の傾向を呈していた。漁場水温も（表面）昨年同期より1℃ぐらい高かつた関係かフグなどの漁獲は1月に入つてからも混獲された。なお1月に入つてから9日出漁したが，漁場は12月とほゞ同海区で漁獲物も前月同様ヒラメ，カナガシラ，フグが主なものであつた。

12月には操業しなかつた風合瀬沖の水深120～170m線で操業してみたが不振に終つた漁場表面水温は上旬平均11.8℃中旬平均11.0℃下旬平均10.0℃であつた。

2月に入り時化つゞきのため11日より出漁しなかつたが，ヒラメ，カナガシラ，ノドグロ，ババガレイ等が主なもので，フグはだんだん少くなつてきている。

漁場は深浦前沖～黄金崎沖で水深90～120mであつたが表面水温は9.0℃～9.4℃であつた。

3月は海洋観測を実施したゝめ12回出漁しただけで，漁場は深浦沖から田の沢沖でヒラメ，

ノドグロ，カレイ類が主体であつた。

昭和４１年度と昭和４２年度を比較すると４２年はカナカジラが少々多く漁獲され，その他は全漁種とも3.6％～6.5％少い。

Ⅳ 考　察

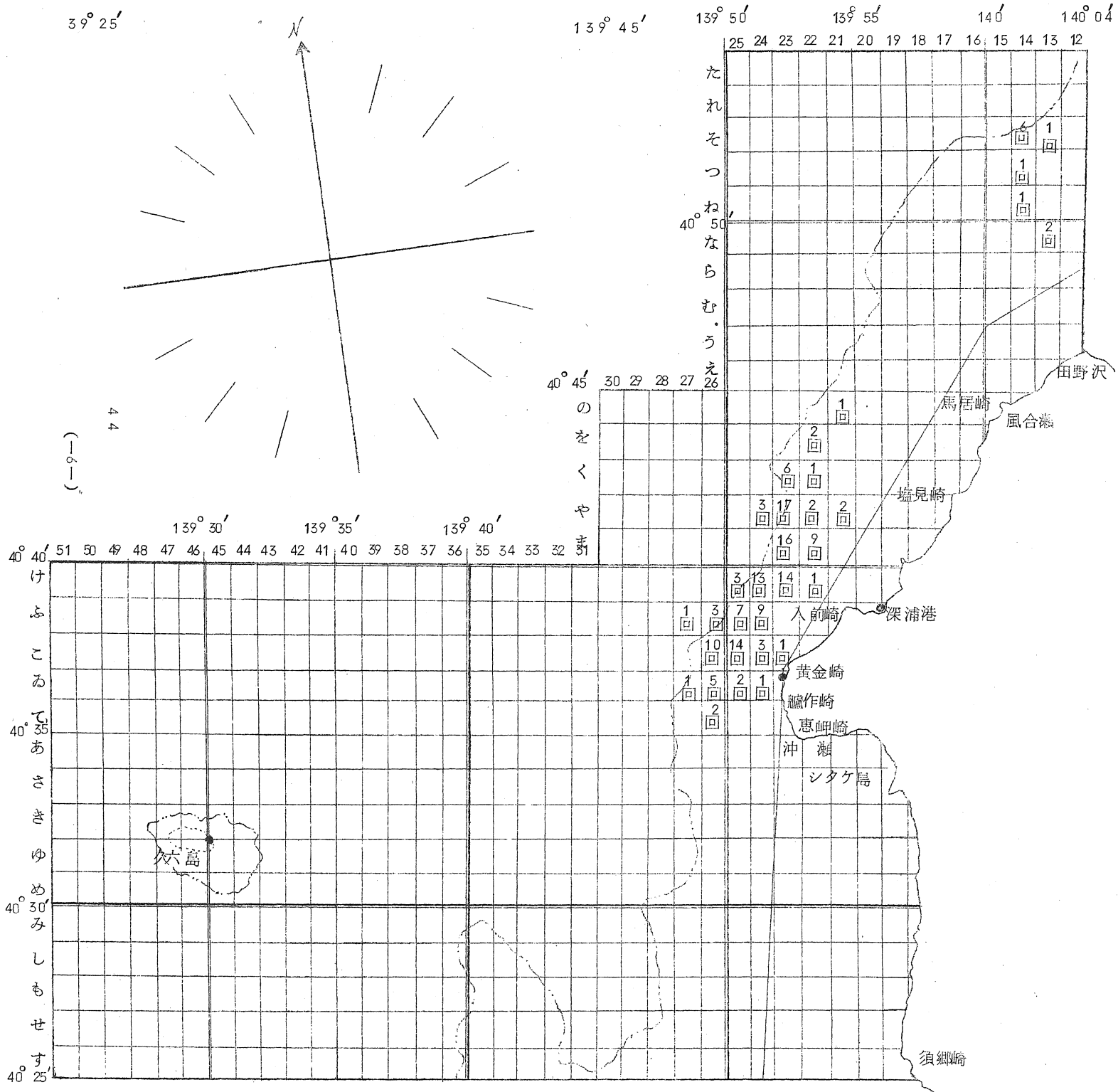
鯵ケ沢，深浦港における底びき網漁業者は，その年のアブラツノザメ回遊量と漁場の選定によつて漁獲の増減が支配されているが，深浦地区では　作崎地区が主漁場であり，本年の底びき網漁業は，３４年以降最も悪い漁で３月末までに２トン前後の漁獲よりなかつた。

又，深浦における漁場は水深９０～１２０ｍ前後のところであり，例年ヒラメ，カレイ類の多獲される漁場でもあつたが，試験船のヒラメの漁獲量をみると４１年度は1.671㎏，４２年度は1.096㎏となつており，４１年度より6.56％少なくなつている。

このような漁獲減少の打開策として４２年度２月幸洋丸により深海漁場開発をこゝろみ，久六島周辺を試験操業した結果ズワイガニの棲息がみとめられ，今後は継続試験を実施すべきものと考えられる。

同時にアブラツノザメについては，海況の変化等による回遊移動の究明のため，標識放流を実施しなければならないと考えられる。

第 1 図



瑞鷗丸底棲生物調査漁区別漁獲高調　　昭和４２年度

操業期間	操業位置	漁場水深	操業回数	漁獲高 Kg	%	操業期間	操業位置	漁場水深	操業回数	漁獲高 Kg	%
42年12月 43年 3月	この２６	95～120m	１０回	４１４	8.0	42年12月 43年 3月	やの２１	95～100m	２回	３８	0.7
〃	けの２５	90～110ｍ	３回	２６８	5.2	〃	やの２２	90～120ｍ	２回	１２４	2.4
〃	まの２３	85～140ｍ	１６回	５２８	10.2	〃	ののＺ１	～274m	１回	１７	0.3
〃	ふの２５	90～140ｍ	７回	１９３	3.7	〃	るの２７	100～120	１回	２５	0.5
〃	ふの２６	95～130ｍ	３回	１７９	3.5	〃	るの２６	100～120m	５回	１０９	2.1
〃	この２５	95～170ｍ	１４回	３４９	6.8	〃	その１４	140～110m	６回	５７７	11.2
〃	けの２４	90～150ｍ	１３回	３２８	6.3	〃	ふの２７	～110m	１回	２０	0.4
〃	けの２３	90～120ｍ	１４回	４０３	7.8	〃	あの２５	～140m	２回	５８	1.1
〃	やの２３	95～230ｍ	１７回	２１２	4.1	〃	ての２６	90～110m	２回	３５	0.7
〃	けの２２	90～ 95ｍ	１回	２８	0.5	〃	やの２４	～140m	３回	７３	1.4
〃	るの２４	85～120ｍ	１回	３４	0.7	〃	その１３	120～130ｍ	１回	８８	1.7
〃	まの２２	90～110ｍ	９回	２１９	4.2	〃	つの１４	100～125ｍ	１回	６６	1.3
〃	この２４	85～105ｍ	３回	１２７	2.5	〃	ねの１４	130～160ｍ	１回	２０４	3.9
〃	ふの２４	90～110ｍ	９回	２０７	4.0	〃	をの２２	120～140ｍ	２回	１９	0.4
〃	くの２３	100～160ｍ	６回	７３	1.4	〃	この２３	100～120ｍ	１回	１６	0.3
〃	くの２２	120～140ｍ	１回	２５	0.5	〃	なの１３	100～110ｍ	２回	１１５	2.2
						計	３２海区		１６０回	5.171Kg	100%